

# 歴史探訪

## クラブ!

其の 135

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局 3635  
FAX 22局 3811

### 東大寺瓦発掘記念の暖簾

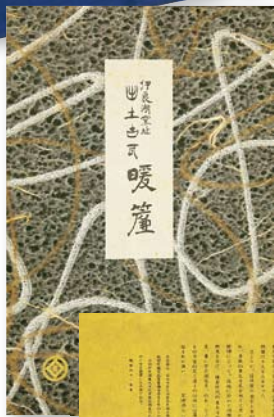
ここに、紙箱に丁寧に納められ、包装された暖簾があります。実は、これはただの暖簾ではありませんでした。紙箱には、「伊良湖窯址出土古瓦 暖簾」とシールが張り付けられています。暖簾は、伊良湖東大寺瓦窯跡から出土した瓦をデザインしたものです。この窯跡は、鎌倉時代に奈良の東大寺が再建されたとき、屋根を葺く瓦を焼いた窯として国史跡に指定されました。

暖簾には、屋根の軒先を飾る瓦に



●写真上から東大寺瓦発掘記念の暖簾、紙箱、解説と町長あいさつ文

刻まれた文字の拓本、また瓦に押された「東」「東大寺」の刻印もデザインの一部となり、考古学者の石田茂作の「我思古人」の書が添えられています。じつに洒落ています。箱の中にある石田の解説と、当時の渥美町長である杉浦太平のあいさつ文によると、石田が発掘現場に来たとき、この解説とともに図案を依頼されたもので、昭和41年の夏に制作されたものとわかります。しかし、な



ぜ発掘調査の記念でこれだけのことをしたのか、不思議で仕方ありません。私は、その理由が知りたくなり調べてみました。

当時は、渥美半島で豊川用水工事が行われていました。用水の最終調整池である初立池の造成中に窯が見つかり、昭和41年5・6月に調査が行われました。同じ瓦を焼いた岡山県方富東大寺瓦窯は、昭和2年に国の指定となっていました。伊良湖の窯は、江戸時代から知られ、大正時代に国の現地調査でも確認されていたにも関わらず、なぜか注目されませんでした。しかし、昭和41年の調査で初めて東大寺の瓦を焼いた窯が発掘され、瓦まで見つかりました。連日、テレビ局や新聞社、多くの考古学者、陶芸家、瓦製造関係者までもが発掘現場を

訪れ、大変なにぎわいだったと、昭和41年の渥美町の広報紙に記されています。また、「大仏殿瓦記念館」の建設運動まで起こったとも記されています。この盛り上がり、暖簾を作った理由だったようです。

46年前の渥美町民は、誰もが知っている日本の歴史と町の歴史が重なった感動に酔いしれていました。その証言者がこの「暖簾」なのです。

※石田茂作（1894～1977）は、岡崎市出身で奈良国立博物館の館長を務めるなど、仏教考古学の基礎を築いた権威。

【お詫びと訂正】  
前号で「熊野那智地方」を三重県とご紹介しましたが、正しくは和歌山県でした。お詫びして訂正いたします。

（増山）

### 今月の「表紙」

▼花言葉の一つが「絆」だというハマヒルガオ。5月の連休から咲くのを待ちわびていましたが、咲き始めたころ、ひょうが降って花びらがボロボロに…。それから10日後、見事に復活した一面のピンク色の花に感動しました。可憐だけれど力強いこの花には、サーファーの姿が良く似合います。(O)

【表紙の写真】ロコパークのハマヒルガオ(赤羽根町)